KIORITZ

取 扱 説 明 書

手動噴霧機
（背のうダイヤフラム型）

KD-13P
KD-17P

⚠ 警　告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

取扱説明書

部品番号10010-940003 0507版

商品名称：ダイヤフラム形噴霧機

形　　式：

このたびは、ダイヤフラム形噴霧機をお買い上げ頂き誠にありがとうございました。

ご使用前にこの取扱説明書をお読みの上、正しくお使い下さい。

＊＊安全にお使いいただくために

この取扱説明書には、使用に際して、特に重要な内容を　⚠危険　⚠警告　⚠注意
のマークを使用して表現してあります。このマークは以下の意味を持ちます。
⚠危険：守らないと、死傷又は重大な人身事故となる。
⚠警告：守らないと、死傷又は重大な人身事故となる危険性がある。
⚠注意：けがをする危険性があり、状況によっては、重大な結果に結びつく可能性がある。

- いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守って下さい。
- お読みになった後は、お使いになる方が、いつでも見られる所に必ず保管して下さい。
- この機械を他人に貸す場合、この説明書も貸与し、熟読と安全上の注意を伝えて下さい。

⚠警告

薬品事故防止（薬品の取扱説明書をよく読み、正しく使用のこと）

- 薬液の調合の際は正しく薄めること。
  調合の適切でない薬液は、作物を痛めるだけでなく人体にも有害になる恐れがあります。
- 薬品の取扱説明書をよく読み、薬品をあびたときの応急処置を認識しておくこと。
  作業中、作業後に、めまい・頭痛を生じ　または気分が少しでも悪くなった場合には
  直ちに医師の診察を受けること。
- 作業中は、防護メガネ・防護マスク・防護服（ゴム手袋・長袖・長ズボン・長靴等）を
  使用し皮膚の露出を防ぐこと。薬品の吸入や付着による事故を防ぎ、人体を保護します。
- 作業後は、手足はもちろん全身を石鹸でよく洗い、目も十分に水洗すること。
  作業期間中は、衣服を毎日取り替えること。
- 目的物以外に噴霧がかからないよう、風や周囲の状況に注意し、安全措置をすること。
  水道、河川、池、沼の汚染や、他の人、家畜、作物に被害が及ぶ原因になります。
- タンクを、必要以上に傾けたり、落下させたりしないこと。
  薬液を入れた状態でタンクを傾けると、薬液がもれる場合があります。
- 薬液は、専用の保管箱に鍵をかけて保管し、絶対に食品や食器と一緒に保管しないこと。
- 誤使用、誤飲の危険がありますので、農薬は絶対に別の容器に移し替えないこと。
- 薬品の空き缶を、みだりに廃棄しないこと。
  薬品メーカーの指示に従ってその都度正しく処分してください。
- 余った薬液、及び機械の洗浄水は、河川、水源池、池、沼、又は下水等に流入し、被害を
  及ぼさないように廃棄して下さい。

使用者の限定

- 次に該当する方は、この噴霧機の使用をしないで下さい。
  - 疲れ、病気、または　薬品（農薬を含む）、の影響などで正常な作業ができない者。
  - 酒気をおびた者　・妊娠中の者　・満１５歳未満の者　・精神に障害のある者。
  - 負傷中の者　・生理中の婦人　等農薬による影響を受けやすい者。

使用用途の限定・改造厳禁

- 安全性を損なう恐れがありますので、改造しないこと。
- 防除、除草用の農園芸用薬品の散布、散水用途以外には、使用しないこと。
  （但し、詳細は別途各個の打合せによる）
- 強酸性の薬品・塗料・シンナー・ガソリン・ベンジン等は使用しないこと。
- 安全性を損なう恐れがありますので、４０℃以上の温水、発熱性の薬品は使用しないこと。

⚠注意

- ホース・配管材等に亀裂、摩耗などの破損がある時は、新品に交換すること。
- 突然の噴出により、薬品をあびる原因になります。
- 作業前に各ネジ部にゆるみがないこと、各部に異常のないことを確認すること。
- 使用後は、**圧力を抜いてからよく洗浄**すること
- この機械の保管は、**子供の手の届かない**場所であって、風通しが良く
  かつ**直射日光の当たらない室内**にして下さい。
- 内部洗浄は、柄の付いた道具を使用のこと。胴体の開口部でケガをする原因になります。
- タンク下部の機械部に不用意に手を入れぬこと。可動部分でケガをする原因になります。
- この機械のラベルが、汚れたりはがれた場合、新しいものを入手して貼り変えて下さい。

＊＊使用前の準備

1 背負いバンドのフックをタンクの吊環に取り付け、身体に合わせて調節して下さい。
2 槓桿には、握りをねじ込んで下さい。（槓桿／こうかん＝加圧用のハンドルのこと）
3 槓桿は、タンク裏面の内側より外へ差し込んで下さい。
ダイヤフラム中央部のロッドの孔、及びダイヤフラムカバーの孔にそれぞれ差しこんで、
ピンにて止めます。
4 タンクの排水口から、噴霧ホース・握り管・コック・噴霧管・噴口の順に部品を継ぎ、
確実に締め付けて下さい。
5 ホースに亀裂などの破損がないこと、各ネジ部にゆるみがないことを点検して下さい。
6 使用前に、ダイヤフラムカバー及びロッドの孔に、注油して下さい。
7 コックのどの向きが開位置・閉位置か、確認して下さい。作業中以外には閉位置にして下さい。

＊＊噴霧作業

1 薬液を入れる前に、コックは必ず閉位置にしてください。
2 薬入口蓋をはずし、ろ過器を通して、調合した薬液を入れて下さい。
＊薬入口蓋の「小さな孔」は、空気孔なのでふさがないこと。
ふさいで使用すると、タンクが変形する原因になります。
＊薬液は他の容器で調合して下さい。やむを得ずタンク内で調合する場合は、
最初に水を所要量の半分程を入れてから薬品を入れ、残りの水を入れ薄めます。
3 薬液をいれたら、すぐに薬入口蓋を確実に締めて下さい。
4 タンクは背負バンドにて体に確実に装着して下さい。
5 コックが閉位置の状態にて、槓桿を数回上下に動かして下さい。
6 圧力がかかれば、コックを開にして噴霧作業をして下さい。
7 圧力がかからない場合、タンク内の薬液を他の容器に移し替えてから、
ダイヤフラムカバーとダイヤフラムを外して、内部の弁ゴムを点検をして下さい。
弁ゴムが喰い付いているか、又、弁ゴムとの間に異物がある場合には、圧力がかかりません。
8 緊急停止の場合、すぐにコックを閉位置にして下さい。

⚠警告

- 作業中は、防護メガネ・防護マスク・防護服（ゴム手袋・長袖・長ズボン、長靴等）を
  使用し皮膚の露出を防ぐこと。薬品の吸入や付着による事故を防ぎ、人体を保護します。
- 目的物以外に噴霧がかからないよう、風や周囲の状況に注意し、安全措置をすること。
- 作業中、作業後に、めまい・頭痛を生じ　または気分が少しでも悪くなった場合には
  直ちに医師の診察を受けること。
- 薬液タンクを、必要以上に傾けたり、落下させたりしないこと。
  薬液を入れた状態でタンクを傾けると、薬液がもれる場合があります。
- タンクに薬を入れたまま自動車などで運搬する場合は、薬液が漏れる可能性があるので、
  タンク本体を傾かない状態に固定すること

＊＊使用後の手入れ　使用後の薬液は絶対に残さないこと!!

＊各部の洗浄

1　噴霧ホースを外し、タンクを傾けて、排水口よりタンク内の薬液を排出して下さい。

2　タンクを逆さまにして槓桿を数回を動かし、つぎに正常位置にして槓桿を数回動かす、
この排出しさせる動作を２～３回くり返して、ポンプ内の薬液を抜いて下さい。

3　次に必ず清水をタンクに入れて、ダイヤフラムから空気室の内部に、清水を通して下さい。
そして上記の排出させる動作をおこない、これらをくり返して内部を洗浄します。

4　薬入口蓋を開けて　タンク内を十分に洗浄して下さい。
最後に残水を十分に抜いて下さい。
【注意】使用後は必ず清水にてよく洗って下さい。
ステンレス網は、塩素系の液が残りますと腐食してタンク漏れの原因となります。
濃度の高い薬液（殺菌剤等）塩素系の水溶液（除草剤等）使用の時は、
そのまま放置せず、必ず清水にてよく洗い、内部の残水を抜いて下さい。
この作業にて、同時に弁ゴム及びダイヤフラムの劣化を減らし長く御使用出来ます。

5　洗浄水、残液の処理は周囲への影響を考慮し、使用薬液の取扱説明書に従って下さい。

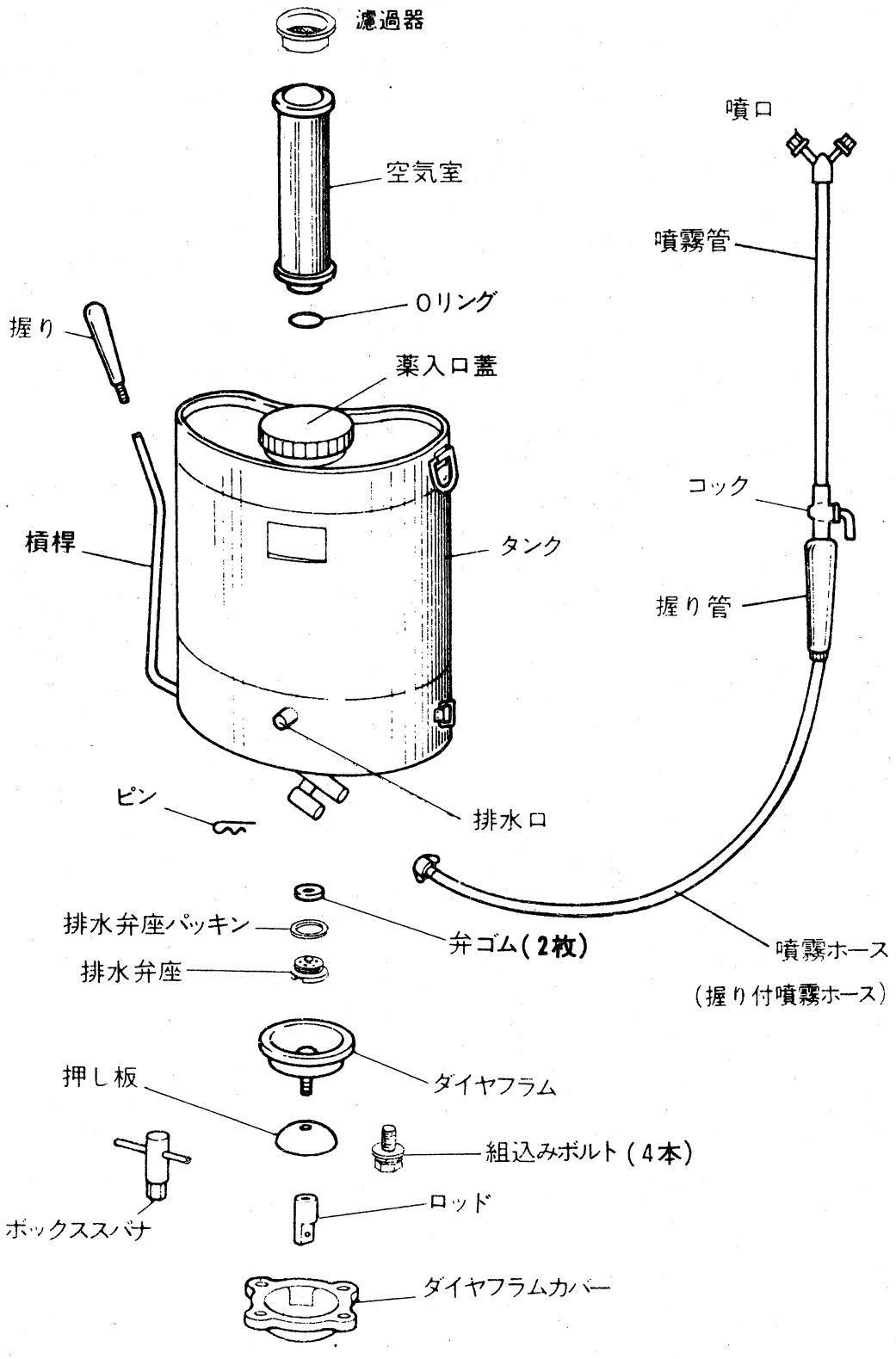
＊お手入れ

1　オイルをダイヤフラムカバー及びロッドの孔に注油し、そして槓桿を上下させ、
全体にオイルが行き渡るようにして、潤滑を良くして下さい。

2　長時間使用しない場合は、上記の水洗い・残水抜きを完全に実施し、
オイルも注油して防錆を十分に施し、次回の使用に備えます。

⚠注意

・使用後は、圧力を抜いてからよく洗浄し、子供の手の届かない場所であって、
風通しが良く、かつ直射日光の当たらない場所に保管して下さい。


濾過器
空気室
Oリング
握り
薬入口蓋
槓桿
タンク
ピン
排水口
排水弁座パッキン
排水弁座
弁ゴム(2枚)
噴口
噴霧管
コック
握り管
噴霧ホース
(握り付噴霧ホース)
ダイヤフラム
押し板
組込みボルト(4本)
ロッド
ボックススパナ
ダイヤフラムカバー

株式会社 共立

東京都青梅市末広町1-7-2　〒198-8711　☎0428-32-6181

北海道共立エコー株式会社
札幌市厚別区大谷地東1-2-20　〒004-0041　☎011-891-2249(代)

東北共立エコー株式会社
仙台市若林区卸町東5-1-50　〒984-0002　☎022-288-0511(代)

東部共立エコー株式会社
青梅市末広町1-7-2　〒198-0025　☎0428-32-1091(代)

中部共立エコー株式会社
愛知県清須市西枇杷島町宮前1-39　〒452-0031　☎052-502-4111(代)

西部共立エコー株式会社
岡山市藤田566-159　〒701-0221　☎086-296-5911(代)

九州共立エコー株式会社
大野城市白木原5-3-7　〒816-0943　☎092-573-5361(代)

エコーレンテックス株式会社
青梅市末広町1-7-2　〒198-0025　☎0428-32-6777(代)

◎ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

© 2007 株式会社 共立　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。